



光受寺通信

R.3年5月1日 発行
発行元 光受寺
<https://koujyuji.com/>

4月15日(木)教如上人の『報徳会』が関係寺院 19ヶ寺によって勤修された。この日は雨間を縫っての快晴に恵まれた申し分のないお天気となった。ただ新型コロナの第4波の拡大中のことであったことから、感染防止には大変神経を使う行事となった。

思えば前回の報徳会から20年という月日が流れたことになる。報徳会を迎えるにあたっては数年前から光受寺役員様をはじめ、多くのご門徒、縁者の方々のお力添えをいただきながら、精いっぱいのお勤めをさせていただくことができたと思っている。

次回は19年後に再びお迎えすることになるのだが、その時には私はもう90歳を超えている。たとえ生きていたとしてもこの行事に関わることはもうできないだろう。そう思うと今年の報徳会は格別の思いを抱かせてくれた。真紅の大輪のボタンが今日の日を祝ってくれているようだった。

「時の流れに身をまかせ」そう口ずさみながら今を大切に生きていこうと思う。

令和3年
2021・4・15

報徳会勤修される。



教如上人のご遺徳と、身命をかけて上人をお守りした多くの門徒(私たちの祖先)の追弔会を十九ヶ寺の住職方で執り行ったのです。

法要次第 十五日(満日中)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|----|---------|----------|------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 法話の代わりに
教如上人物語 DVD 視聴 | 先 | 出仕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 総礼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 伽陀 | 先請弥陀 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 登高座 | 宿坊住職 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 御経 | 仏説観無量寿經 | 音木有之 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 伽陀 | 直入弥陀 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 下高座 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 三誓偈 | 添勤導師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 念仏讚 | 淘五 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 次 | 和讃 | 三朝浄土ノ大師等 | 次第3首 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次 | 回向 | 願以此功德 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次 | 総礼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次 | 退出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | (御墨付披露) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

コロナ感染予防のためマスクをかけてのお勤めとなりました。



直参士手組として特別な待遇を受ける。

役員・お手伝いの方々との記念撮影。



南内陣にかけられた教如上
人ご絵像。(平生は蓮如上
人をおかけしています。)

教如上人から送られたお礼状
今度其の方の陰に依り虎口の難を遁れ候事厚情忘れ難く候之に仍って大悲尊像之を與へ候弥いよ法儀相続以來別心之無く頼み入り候委者筆に尽ず松井へ申し含み候以後望の儀等之有り候はば申し出でらる可く候件の如し
十二月二日 教如 御判
濃州安八郡 九ヶ寺

今月の掲示板

芍薬アジサイがまもなく見頃。

今年は季節の移ろいが早いせいで、山アジサイはもう花芽ができています。(4月20日)この分ですと5月の中旬には花が楽しめると思います。

また光受寺では今、芍薬を増やそうと、力を入れています。昨年増やした株にはもう蕾がしっかりとついています。将来は山アジサイを中心に、芍薬を5〜6月の光受寺の花として皆さんに楽しんでいただこうと思っております。

牡丹→芍薬→山アジサイとつないでいけたら初夏の楽しみが一段と広がるのではないかと思っております。

と云って今年も元気のなかつた飛龍梅が少し元気を取り戻したようであります。



山アジサイ



ずいぶん上部の枝を落としましたが、何とか3か所から芽が出ました！来年は楽しみにしてください。



昨年の芍薬

世人、

まじりかなら

実に爾なり

一の言葉は大無量寿経の下巻に出てくる言葉です。

お釈迦様の説法を聞いた菩薩が「まじりかならぬと領いた言葉です。」

「心塞意閉」＝自分の思いに閉じこもって生きている私たちが「心得開明」した時に発する言葉です。明るく見えること、心を開き、自分の真の姿が見えたということなのです。

まじりかには、いよいよ仏法を聴いていくという生活が始まることになるのです。見えた自分とまじりか向き合って生きて行くのかが問われてくるのです。

新コーナー

十二回連載

樹林

自然散歩コーナーは12回連載の予定でしたが、新年度を迎え、新しいコーナーに切り替えることにいたしました。自然散歩同様、愛読ください。

2回目



こころの散歩

自然の働きと仏様

私は六十歳になった時、十年目標を思いつき、以後七十代、八十代と続けてきました。六十代時代の目標は、自然をつぶさに観察する『自然観照』でした。

私もは、自然が身近にあるため、特に注意を払うこともなく過ごしていましたが、自然観照の実践でわかったことは、自然は感動、感激、脅威、畏敬の源であることに気づいたことでした。自然を深く見つけることは、仏教の信仰にも深くつながるものであることも分かってきました。遠く飛鳥時代に始まる修験道へ山岳信仰は深山に分け入り自然の靈氣を感じて自然と融合するものです。さらに縄文時代には豊かな自然の恵みに感謝し、自然の働きに神を観てきました。このように古くから自然と人間は深くつながっており、精神生活の源泉となってきました。自然を注意深く見つけることで御仏の存在を確信できるものと思えます。



お知らせ

学習会……「コロナ拡大中につき、中止します。」

金曜喫茶……毎週金曜日。午後1時半より

ただし4日(金)はお休みです。